

新着図書から

▼サハラ／笹本稜平／徳間書店▼サウスポイント／よしもとばなな／中央公論新社▼年下の男の子／五十嵐貴久／実業之日本社▼遊女（ゆめ）のあと／諸田玲子／新潮社▼B型自分の説明書／JamaisJamais／文芸社▼知識ゼロからの寿司入門／小原佐喜男／幻冬舎▼蟹工船／党生活者／小林多喜二／新潮社▼音楽遍歴／小泉純一郎／日本経済新聞出版社▼科学の扉をノックする／小川洋子／集英社▼男の老後力／鷲田小弥太／海竜社▼「自分」から自由になる沈黙入門／小池竜之介／幻冬舎▼骨盤調整ペルヴィス・ダンス／Kyo／メディアファクトリー▼こどものうたピアノ伴奏集ベスト100／音楽教材研究会／民衆社▼地元にながら都会に負けない、地方発信型ビジネスモデルの作り方／上野真蔵／クロスメディア・パブリッシング▼世界のサブカルチャー／屋根裏／翔泳社▼大学ランキング2009年版／朝日新聞出版▼寝たきりにしない自宅介護／峯村良子／小学館▼万能川柳・デラックス1000／仲畑貴志／毎日新聞社▼飛田和緒のかぞくごはん／飛田和緒／小学館▼新・恐竜たち／黒川みつひろ／こぐま社▼読みがたり茨城のむかし話／茨城民俗学

カレンダー 7・8月

日	月	火	水	木	金	土
		7/1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31	8/1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

火～金 10:00～18:00
土・日 10:00～17:00
※夏休み期間中（7月23日～8月31日）は9:00から開館します。
●休館日
○おはなし会 11:00から

読書感想文課題図書

第54回青少年読書感想文全国コンクールの課題図書は、夏休み期間中に利用が集中するため、7月・8月の間、以下の課題図書の貸出期限を1週間とします。できるだけ多くの方にご利用いただけます。よう、ご協力をお願いします。

桂図書館・資料館 だより

☎029-289-4946

パソコン・携帯から蔵書検索・予約できます

PC <http://lib.town.shirosato.ibaraki.jp>

携帯 <http://mlib.town.shirosato.ibaraki.jp>

携帯用QRコード



小学校低学年の部

▼ふしぎなキャンディーやさん／みやにしたつや／金の星社▼ぼくがラーメンたべてるとき／長谷川義史／教育画劇▼かわいいこねこをもらってください／なりゆきわかこ作／垂石眞子絵／ポプラ社▼ちいさなあかちゃん、こんにちは！未熟児ってなあに／リヒルト・デ・レーウ マーイケ・シーガル作／講談社

小学校中学年の部

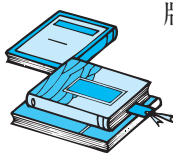
▼3年2組は牛を飼います／木村セツ子作／相沢るつ子絵／文研出版▼ぼくのだいすきなケニアの村／ケリー・クネイン文／アナ・フアン絵／BL出版▼花になった子どもたち／ジャネット・テラー1・ライル作／市川里美画／福音館書店▼今日からは、あなたの盲導犬／日野多香子文／増田／勝正写真／岩崎書店

小学校高学年の部

▼チームふたり／吉野万理子作／宮尾和孝絵／学研▼耳の聞こえない子がわたります／マリー・マトリン作／日当／陽子訳／フレーベル館▼ブルーバック／ティム・ウィントン作／小竹由美子訳／さ・え・ら書房▼なぜ、めい王星は惑星じゃないの？科学の進歩は宇宙の当たり前前をかえていく／布施哲治／くもん出版

中学校の部

▼となりのウチナンチュ／早見裕司／理論社▼曲芸師ハリドン／ヤコブ・ヴェゲリウス作／菱木晃子訳／あすなろ書房▼天馬のように走れ／書聖・川村礪山物語／那須田稔／ひくまの出版



今月のおすすめ



障害者の経済学



中島隆信
東洋経済新報社

【日経・経済図書文化賞（第49回）】子供を自立させることをためらう障害者の親、設備は立派だがニーズにこたえられていない施設、使いづらい運賃割引制度など、障害者福祉はさまざまな矛盾を抱えている。経済学の冷静な視点から、障害者の本当の幸せを考える。



人類が消えた世界



アラン・ワイズマン
早川書房

いま人類が忽然と姿を消したら、世界各地ではいったい何が起ころのか。世界中をフィールドに、最新の科学的知見にもとづき、人間の営みを多角的に見つめなおして描き上げる驚愕の未来予測。



スタンド・バイ・ミー



小路幸也
集英社

本大切な人はきつと、そばにいる。4世代ワケあり大家族が営む古書店に、古本と共に舞い込む謎の数々。その答えから見えてくる、秘められた思いや絆とは？「東京バンドワゴン」第3弾。



直売所だより



山下惣一
創森社

地産地消、旬産旬消を求めて小さな農産物直売所を営む著者が、日々の田畑での出来事や食と農への思いを綴った、ふるさとを離れて暮らす人々への「ふるさと通信」。「読売新聞」の連載記事などをまとめたもの。